

科目別シラバス（講義の概要・特徴など）

科目	指導目標	時間数
1 職務の理解	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人生を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような行動を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるよう指導する。	6
講義内容	1 多様なサービスの理解 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス 2 介護士の仕事内容や働く現場の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く職場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 	
科目	指導目標	時間数
2 介護における尊厳の保持・自立支援	介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解することができる。	9
講義内容	1 人権と尊厳を支える介護 <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持 ・介護分野におけるICF（国際生活機能分類） ・QOLの考え方 ・ノーマライゼーションの考え方 ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の尊厳を守る制度の概要 2 自立に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ・介護予防 	
科目	指導目標	時間数
3 介護の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解することができる。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 	6
講義内容	1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護環境の特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスのちがい ・地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止、遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・自立した生活をささえるための援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム (3) 介護にかかわる職種 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ・互いの専門的能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担 2 介護職の職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護、尊重 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護における安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ・情報の共有 (3) 感染対策 <ul style="list-style-type: none"> ・感染の原因と経路（感染症の排除、感染経路の遮断） ・感染に対する正しい知識 4 介護職の安全 <ul style="list-style-type: none"> 介護職の心身の健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛予防に関する知識 	

科目	指導目標	時間数
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの利用の流れ、各専門職の役割・債務について、その概要のポイントを列挙できる。	9
	<p>1 介護保険制度</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 <p>(2) 仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 <p>(3) 制度を支える財源、組織・団体の昨日と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定 <p>2 医療との連携とリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念 <p>3 害者福祉制度及びその他制度</p> <p>(1) 障害福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ・ICF（国際生活機能分類） <p>(2) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 	

科目	指導目標	時間数
5 介護におけるコミュニケーション技術	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なること、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門的に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解させる。	6
講義内容	<p>1 介護におけるコミュニケーション</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心理とコミュニケーション ・家族の心理的理解とコミュニケーション ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術等 <p>2 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>(1) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護記録の重要性 <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告、連絡、相談の留意点 <p>(3) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場 ・ケアカンファレンスの重要性 	

科目	指導目標	時間数
6 老化の理解	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解することができる。	6
講義内容	<p>1 老化に伴うところとからだの変化と日常</p> <p>(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防衛反応（反射）の変化 ・喪失体験 <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 等 <p>2 高齢者と健康</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折 ・筋力の低下と動き ・姿勢の変化 ・関節痛 <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器障害 ・老年期うつ病症状 ・誤嚥性肺炎 ・病状の小さな変化に気づく視点 等 	

科目	指導目標	時間数
7 認知症の理解	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解することができる。	6
講義内容	<p>1 認知症を取り巻く状況</p> <p>認知症ケアの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 <p>2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその状態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・健康管理 ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬 <p>3 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活</p> <p>(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状 ・認知症の行動・心理症状（BPSD） ・不適切なケア ・生活環境で改善 <p>(2) 認知症の利用者への対応</p> <p>認知症の利用者へのかかわりの基本</p> <p>4 家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の受容課程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア） 	

科目	指導目標	時間数
8 障害の理解	障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解することができる。	3
講義内容	<p>1 障害の基礎的理解</p> <p>(1) 障害の理念とICF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの分類と医学的分類 ・ICFの考え方 <p>(2) 障害福祉の基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの概念 <p>2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p> <p>(1) 身体障害</p> <p>(2) 知的障害</p> <p>(3) 精神障害（高次脳機能障害、発達障害を含む）</p> <p>(4) その他の心身の機能障害</p> <p>3 家族の心理、かかわり支援の理解</p> <p>家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理解、障害の受容支援 ・介護負担の軽減 	

科目	指導目標	時間数
9 ところとからだのしくみと生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てるちからを発揮してもらいながらその人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する。 	75
講義内容	<p>ア 基本知識の学習 (13時間)</p> <p>(1) 介護の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護 <p>(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・ところの持ちちが行動に与える影響 ・からだの状態がところと与える影響 <p>(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・神経系に関する基礎知識 ・利用者の様子と普段との違いに気づく視点 等 <p>イ 生活支援技術の講義・演習 (50時間)</p> <p>(4) 生活と家事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <p>(5) 快適な居住環境整備と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備 ・福祉用具に関する留意点と支援方法 <p>(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 <p>(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する用具とその活用方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところと体の要因の理解と支援方法 <p>(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法 ・食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 等 <p>(9) 入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、生活保持に関連した基礎知識 ・入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識 ・「生」か「死」への課程 ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない「死」への支援 <p>ウ 生活支援技術演習 (12時間)</p> <p>(13) 介護課程の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ <p>(14) 総合生活支援技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による展開 <p style="padding-left: 40px;">生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p>	

科目	指導目標	時間数
10 振り返り	研修全体を振り返り、本県集を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、終業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	4
	<p>(1) 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 <p>(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修</p>	
合計時間数		130